

平成27年度9月定例記者会見 会見録

日時 平成27年9月30日（水）午後7時5分～7時20分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、本日、散会をいたしました9月定例会議についてでございます。9月定例会議につきましては、37日間のご審議をいただき、提案いたしましたすべての案件につきましてご議決をいただきました。議員の方々からは、公共施設の使用料に係る受益者負担の見直しや、平成26年度決算、平成27年度9月補正予算案等、多岐にわたる質疑をいただきました。市といたしましても、引き続き、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

次に、下水道事業にかかる行政監察についてでございます。長期間にわたり不適切な事務処理を行っていたことにつきまして、市民の皆様へ、改めて深くお詫び申し上げます。行政監察の結果につきましては、先日、公表したとおりでございますが、公表とともに速やかな改善等の指示を、事務所管課に行ったところでございます。また、市民の皆様の信頼を損なったことを厳粛に受け止めまして、責任者である私と関係職員の処分を行ったところでございます。今後は、市民の皆様からの信頼にしっかりと応えることができますよう、職員一丸となってこれまで以上に、真摯に職務に取り組んでまいります。

最後になりますが、相模原市と中国の無錫市との友好都市締結30周年記念事業についてでございます。無錫市とは、昭和60年に友好都市の締結をし、これまで、教育や文化、スポーツ、経済など、様々な分野で交流を深めてきており、今年で記念すべき30年目を迎えます。両市では、友好都市締結30周年を記念し、記念式典や両市の紹介展など、様々な催しを企画しております。また、10月8日に無錫市で開催される記念式典には、本市の市議会議長や小星副市長をはじめとする訪中団や、関係団体等が参加いたします。また、11月21日には、無錫市友好訪日団をお迎えし、本市にて記念式典を開催いたします。そのほか、無錫市紹介展や記念コンサート、民間団体主催の絵画展など、市民の皆様にもご参加いただける催しも予定しております。多くの市民の皆様にご参加いただき、これまで築いてきた友好の絆を実感していただくとともに、これからの両市の友好関係を、より一層深めてまいりたいと思っております。

私からは以上でございます。

（記者）

本日の市議会定例会議では、百条委員会の設置を求める動議が提出される異例の展開となりました。また、議員からは、今回下水道事業の問題のひとつでもある、

平成19年度から3年間実施した徴収漏れに関する調査の報告が、市長にあったのかなど、厳しい質問が多くありました。市長は、その件についての報告はなかったと答えられましたが、重要な事案の報告がなされないことなどを含め、今の市の組織体制を、どのように思いますか。

(市長)

下水道使用料等の徴収漏れをはじめ、事件、事故や事務処理ミスが、このところ多く発生しておりますが、それぞれの事案が、どのような原因で発生しているのかを徹底的に解明しなければならないと考えております。特に、今回の下水道事業の事案について、行政監察を行った結果、職員の危機意識の欠如などをはじめ、様々な指摘がありました。市民の皆様からの信頼を回復するため、行政監察で指摘された事項を含め、事務の内容等をしっかりと見直し、二度とこのようなことを起こさないよう万全の対策を取る必要があると強く感じております。

(記者)

市長が4月の選挙で再選され、3期目になった頃から、不祥事が頻発しています。このことについて、組織の立て直しや外部の人材の登用などの意見が、市議会から出ています。このことについて、市長はどのように考えられますか。

(市長)

人材の登用につきましては、外部人材を含め、現在の本市に必要な人材を適切に配置しなければならないと考えております。しかし、昨今、事務処理誤りが頻繁に起こるということは、人材の登用の問題ではなく、事務の執行体制や組織の管理体制になんらかの問題があり、また、担当職員や管理職、特別職も含めたすべての職員が、一貫した事務執行体制を確立できていないことが原因だと思います。まずは、そこから、見直しを行わなければならないと思っております。

(記者)

市議会から、副市長人事には民間人の登用や公募制を導入してはいかがかという意見もありますが、市長はどのようにお考えですか。

(市長)

適切な人材を配置することは当然のことだと考えておりますが、今回の事務処理誤りは、当然行われるべき適正な事務執行が、なされてこなかったことに起因していると考えております。優秀な人材の登用よりも、まず、この点を改めるべきであると考えます。市長一人ですべての事務を掌握することは不可能であるため、4千数百人の職員それぞれの責任において、職務にあたらせているところであり、職員一人ひとりが私と同じ気持ちで、市民の皆様のために仕事をするという意識になっていただく、意識改革をすることが、重要だと思っております。

(記者)

本日、ご自身で提案された給料の減額条例が可決されましたが、現在の感想をお聞かせください。

(市長)

このたびは、市民の皆様にご迷惑をお掛けいたしました。責任者として、私の給料減額を議会に提案し、議決いただきましたが、これですべてが終わったとは思っておりません。行政監察で指摘された事項を早急に改善し、職員一人ひとりが市民の皆様のための職員であるという原点に立ち返るために、意識改革をすることが重要だと思っております。職員一人ひとりに私が声をかけることも必要だと思っております。まずは幹部職員に対し、私から直接、お話しする機会を近日中につくりたいと思っております。また、担当職員が事務を執行する中で、課題となっている事案を上司や私たちに伝えづらい、また、言いたいことが言えない環境があるのかもしれない。担当部局で起きている課題を共有できる仕組みをつくるとともに、様々な情報交換ができる環境づくりも必要だと思っております。例えば、職員配置について、職員数の不足や職場経験が少ないため、市民サービスに影響が出るという意見もあります。課題を共有するための情報交換を適切に行うことで、その解決に必要な対策を導き出すとともに、市民の皆様の立場に立った職員配置ができると思います。また、担当部局における課題の解決や市民の皆様のために有効な組織づくりも可能になると考えております。

(記者)

地方創生にからみ、政府関係機関の地方移転が話題になる中、JAXA相模原キャンパスについて、岐阜県と秋田県が誘致を行うという情報があります。市議会でもJAXAが本市に存続するよう県とともに、要望すると答えられましたが、市として具体的にどのような対応を考えておりますか。

(市長)

今後、国のヒアリングがあると聞いておりますが、これまでの本市とJAXAの関わりや本市や周辺地域にもたらした効果などについて、しっかりと訴えていきたいと思っております。報道等によりますと、秋田県につきましては、相模原キャンパスの機能の一部移転、岐阜県につきましては、総合的な移転を希望しているとのことです。JAXAは、本市にとりまして、まちづくりに大変重要な施設であるとともに、次代を担う子どもたちが大きな夢や希望を持つきっかけになる施設だと思っております。これからも、本市で活動し、活躍をしていただきたいと思うとともに、本市としても、JAXAの事業に対し、より一層、連携、支援をしていきたいと思っております。

以上